

## 特別養護老人ホーム中野けんせいえん 2016 年度総括

### はじめに

住環境はおおしく改善されました。個室化による入居者のストレスの改善、展望ラウンジ等の非日常設備の活用。食事、入浴、排泄ケア全般にわたって大きな転換となりました。

地域連携の課題も地元行事への参加など新たな実践を始めました。

昨年の改定の影響もあり退居を検討しなければならないような事例もありました。

介護職員の確保が出来ず計画通りの稼働ができませんでした、支出の見直しを含めて次年度の経営改善が重要課題です。

待機者数の減少も今年度の大きな特徴です。介護保険改定、高齢者施設の整備等様々な要因はありますが、特養としての利用促進を進める新たな発想が必要になってきます。

### I ひとりひとりの暮らしを大切に、家庭的で温かみのある施設めざして

#### 1、利用者援助実践

○ユニットケア・個別ケアの実践に努力してきました。7名が看取りの契約を結び今年度は2名の方を送りました。家族の希望で居室にて葬儀をあげ施設から見送りをした方もありました。

○接遇について、不適切な対応による苦情もありました。個別の利用者への寄り添いやかかわり方が今後の課題となっています。「親しみ」＝「なれなれしい」傾向が一部にあります。

○食事の提供については大幅に変更となりました、朝食は介護職員、昼、夕食は1ユニット1名の調理員が食事作りを行い毎日3食、利用者の目の前で作りたての食事の提供が実践しました。調理担当者自身が利用者に直接かかわる機会が増え、食事に対する評価、食べ残しの状況も直接確認できるようになりました。調理担当者との相互理解と連携が進みました。経営との関連で2月より2ユニット1名の調理員体制に変更しました。

○3種類のリフト付き個浴も活用し個別の入浴介助や、夕方の入浴も2ユニットで取り組みました。特浴利用者は吉原で50%から20%となりました。

○排泄ケア：居室のトイレの活用が予想以上の効果がありました。朝の順番待ちもなくなりました。おしめ着用率は23%で若干増加しました。

○季節行事・外出等の企画は169回(目標100)行われました。新しい設備(展望ラウンジ・中庭)を活用したのも好評でした。恒例の温泉一泊旅行はできませんでした。

#### 2、施設・職場運営

○中野けんせいえん担当理事の配置。新たに管理部長を配置し、運営改善に努力しました。

○育成面談は全職員実施しました。採用者も多い反面退職者も多い一年でした退職者を出さない職場運営や個別面談のあり方が課題です。

○3大介護の委員会をユニット会議の課題としました。

#### 3、安全安心な施設運営

○昨年改定により入居継続困難となったご夫婦の利用者が介護保険の特例措置利用により入居利用継続となりました。

- 健康管理は個別に前進したが、褥瘡4名と増加しました。入院者も平均4名と前年より増加しました。水分ケアの取り組み状況も影響しました。
- 捜索を伴う離脱、行方不明などの事例はありませんでした。
- 今年度の事故件数は49件でした。直接介助中の事故もあり、個々の力量をあげていく必要があります。出来事（ひやりはっと）報告は300件あり事故予防に生かさなければなりません。
- 異物混入2件・配膳ミス1件。送迎時の交通違反が一件ありました。
- 新たな防災計画、消防訓練マニュアルを検討しました。

## II、職員育成

- プリセプター制度を軸の新人の育成に取り組みました。
- 介護職は育成面談等でユニットケア学習を重視しました。
- 看護職員の外部研修が出来ませんでした。
- 施設独自の学習会は計画通り実施しているが参加者数が減少しました。

## III、家族・地域との連携

- 新たな家族会総会は小グループディスカッションが好評でした。家族会サロン喫茶、ユニット毎の敬老会等に取り組み。家族参加行事は12回でした。
- 友の会中野けんせいえんブロックを立ち上げ、夕涼み会、こけない体操、歌声、などの企画を行いました。
- 地域訪問中野地区を中心にこれまでで最も多い338件の訪問を実施しました。
- 老協中野地区東区相談員連絡会が9月に中野けんせいえんで行われました。
- 中野祇園宮精霊送り3名、学区運動会1名、中野地区とんど祭り3名の職員が参加しました。
- 地域交流スペースでは毎週囲碁サロン「フレンズ」。さいさいこども食堂が地域のボランティアにより毎月取り組まれました。

## IV、社会保障・平和・まちづくりの課題

- 平和行進参加者6名 原水禁1名 県民医連平和ゼミ1名 平和セミナー2名。国保料引下げ等の署名集計は575筆でした。
- 岡山市社会保障推進協議会の岡山市との懇談2名参加。交渉の成果もあり、岡山市の国保料が来年度も据え置きとなりました。

## V、経営

- 稼働計画が大幅に遅れたこと、支出経費も予算を超過し、大幅な赤字決算となりました。
- 教養娯楽費のユニット管理により経費節減意識は高まりました。
- 短期専用ユニットではリーダーと担当相談員で協力して居室稼働を促進しました。

## 特別養護老人ホーム中野けんせいえん2017年度方針

I 特養を取り巻く情勢は大きく変化しています。改定の影響もあり特養待機者は大幅に減少しました、これは岡山市でも例外ではありません、中野けんせいえんでは実質の待機者はこの一年で半減しました、特養中野けんせいえんのおかれている状況も大きく変化しており、こうした情勢への対応が求められます。

### II 選ばれる施設運営に向けて

選ばれる為の具体的な要因、当面の努力の方向として

- ① 他にはない、特徴的な施設介護実践とそのアピールについて検討します。
- ② 地域との関係をより強めていきます。

#### 1、利用者本位の援助実践に取り組みます。

- ① 利用者及び家族への寄り添い・接遇・コミュニケーションを重視します。
- ② 2ユニットに一人の調理員体制を基本に多様な調理の提供を行います。
- ③ 入浴の自立支援および、夜間の入浴等のニーズに対応します。
- ④ 排泄ケアの自立支援に取り組み、おむつゼロを目指します。
- ⑤ 人生の楽しみ、生活目標を重視し、季節行事外出企画200回を目指します。

#### 2、安全安心の施設運営に勤めます。

- ① 所得・介護度の制限に対し、必要な人が安心して利用できる施設を目指します。
- ② 事故予防・感染予防は新たな委員会で対策します。褥瘡ゼロを目指します。
- ③ 虐待予防に向けて介護技術・メンタルケアに取り組みます。

### III 必要な人材確保とともに、育成できる職場づくりに取り組みます。

- ① 働き甲斐のある職場運営。そのための2回の育成面談、適時の個別面談を行います。
- ② 外部研修・先進施設等への視察を行います。
- ③ 就職説明会・学校訪問に取り組み来年度新卒確保を行います。
- ④ 積極的に資格取得にチャレンジするように

### IV 家族・地域との連携に勤めます。

- ① 家族会活動を支援し、家族参加行事に取り組みます。
- ② 友の会の組織強化及び中野けんせいえんブロック企画に取り組みます。
- ③ 中野地区の主な行事（中野地区春祭り5月 精霊送り8月 学区運動会10月 とんど祭り1月）への参加及び様々な地域活動支援と連携を行います。
- ④ 岡山老協及び東区内の介護事業所との連携や交流に勤めます。

### V 安心して暮らせる地域社会を目指して社会保障・平和の課題に取り組みます。

- ① 岡山市社保協の行政懇談や民医連等の署名の推進に取り組みます。
- ② 平和行進・原水禁大会へ参加します。

### VI 安定した経営をめざします。

- ① 一日平均の稼働計画目標は、長期108名 短期9.5名。
- ② 利益目標は収益比3%とします。